

2026 年度 学力検査 問題

国 語

〔注意〕

- (1) 「はじめ」の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはいけません。
この「注意」をよく読んでください。
- (2) 国語の検査時間は 50 分です。
- (3) 問題は 1 ページから 13 ページまであります。
解答用紙は 1 枚で、この問題冊子の中にはさんであります。
- (4) 受検番号と氏名をこの表紙と解答用紙に必ず記入してください。
- (5) 答えはすべて解答用紙に記入してください。
- (6) 解答に字数制限がある場合は、記号や句読点も一字としてかぞえます。
- (7) 問題の内容についての質問には応じません。印刷のはっきりしないところがある場合には、
静かに手をあげて係の先生に知らせてください。
- (8) 筆記用具などを落とした場合は、静かに手をあげて係の先生に知らせてください。

受検番号					氏 名

第1問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人間が最も A と異なっていることは何でしょうか？

「知能が（突出して）発達していること」であることに異論を唱える人はいないでしょう。では、発達した知能とは、どのようなものなのでしょう？

言葉や数を自由に操れる、それによって知識を蓄積し、科学のように役に立つ体系的な理論として構築し、再現可能にすることでさまざまな「道具」を發展させて活用できる……このようなことが A と人間を異なる存在にしているといつてよいでしょう。

その中でも言葉や数を操れることが、人間の知能の基本中の基本でしょう。言葉がなければ、コミュニケーションも知識の伝達も不可能です。さまざまな道具や紙、技術を發展させ、伝承させることができたのも、言葉や数（や記号）によってそれらを記述し、記録することができたからです。

言葉と数を生み出すのに必要なのが、「複数のものをまとめて、一つのものとして扱う」という「① 抽象化」です。言い換えれば、抽象化を利用して人間が編み出したものの代表例が「数」と「言葉」です。

抽象化のない世界はどんな世界でしょうか。それは、私たちの世界に数と言葉がなかったら……と考えるのが一番簡単です。数と言葉を取り上げられたら、私たちの生活はほとんど成り立たず、動物と同様の生活になってしまいます。言葉がなければコミュニケーションは成り立たないばかりか、本を読んだり勉強したりすることもできません。また数がなければ、「お金」を使った経済活動は一切成立しませんし、電車も自動車も使えないどころか、科学技術の発達も一切なかったことでしょう。

改めて、数と言葉がどのように成り立っているかを考えてみましょう。ここに抽象化の本質が隠されています。

数と言葉を成立させるためには、『まとめて同じ』と考えることが不可欠です。まず数に関してですが、リンゴ三個も犬三匹も松の木三本も本三冊も、「まとめて同じ」と考えることから「三」という数が成立しています。

なにげない、当たり前のことのようにですが、動物にはこのような「概念」を（ほんの一部の限定的なことしか）扱うことができません。

同じように「言葉」も、「まとめて同じ」と考えることで、個別の事象に名前をつけることができ、② それらの同じ性質をまとめて扱うことでコミュニケーションができたり、森羅万象の理解が進んだりします。

鮪も鯖も鰹も、まとめて「魚」と呼ぶことで、「魚を食べよう」とか「魚は健康に良い」という表現が可能になり、「魚類」の研究が進むこ

とになります。「魚」という言葉（や同等の言葉）を使わずにこれらを表現しようと思うと、いちいち個別の魚の名前をすべて挙げることになります。さらにいえば、「鮪」という名前も、何万匹という個別の鮪を「まとめて同じ」と扱っているからつけられたのです。「いま〇〇沖のA地点で群れて泳いでいる先頭の鮪」と「昨日××さんが築地に揚げて、いまセリを待っている手前から三列目、左から五番目の鮪」を鮪という言葉を使わずにすべて区別していたら、どれだけ大変なことになるか、文字どおり「想像を絶する」ことになるでしょう。

ここでは、このように「個別」としての具体と「まとめて同じ」として扱う抽象の関係を図のような三角形で表現します。【図X】
この三角形は、次のことを象徴的に示したものです。

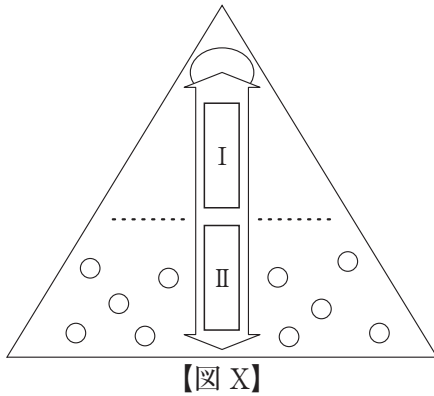
●複数の具体を「N…1」でまとめたものが抽象であるという関係（だから下にいくほど広がっていく）

③ 具体⇄抽象という関係は、相対的に連続して一体となって階層的に存在するということ（たとえば、「鮪」は「魚」の具体でもあり、個別の鮪の抽象でもあるというように、あくまでも相対的にどうみるかで具体か抽象かが決まる）

ここではこの三角形を用いて、身の回りの事象の「具体と抽象」を一つずつ解説していきます。

言語が抽象化の例だと書きましたが、言語能力は抽象化能力と表裏一体のものです。B、たとえば人間⇄犬の「自動翻訳機」ができて、単語レベルの変換が可能になって話ができたとしても、抽象化のレベルが合わなくては、コミュニケーションにならないはずで

C、④ 飼い犬との自動翻訳が可能になったという思考実験をしてみます。こんな会話が交わされることになるのではないのでしょうか？



「ごはん食べる?」

「えっ!? 何ですか? 『ごはん』って」

「『エサ』のことだよ」

「えっ!? 何ですか? 『エサ』って」

「ローファットフードだよ、スーパーペット社製の……」

「えっ!? 結局、何を食べられるのかよくわからないなあ……?」

「昨日の朝も夜も食べたでしょ? 玄関の下駄箱の横に置いてあるあれのことだよ」

「ああ、あれのことですね。難しい言葉で言われたので、何のことだかさっぱりわかりませんでしたよ」

「えっ!?」

……

犬はたとえ話せるようになったとしても、抽象化された概念の理解力が弱いので、たとえば右のような会話になってしまわずです。基本的に、「具体的に」ものを見せられなければ、言葉では抽象的すぎてわからないことになるのです。

実際には、右の会話でも抽象的な概念（「何」もその一つ）が用いられているので、こうした会話ですら犬は簡単にはできないはずです。このように何気なく使っているが、人間の知能の「すごさ」を最も象徴的に表すのが「抽象化」です。

（中略）

抽象化の最大のメリットとは何でしょうか？

それは、複数のものを共通の特徴を以てグルーピングして「同じ」と見なすことで、一つの事象における学びを他の場面でも適用することが可能になることです。つまり「D」（実際には、十どころか百万でも可能）です。

抽象化とは複数の事象の間に法則を見つける「パターン認識」の能力ともいえます。身の回りのものにパターンを見つけ、それに名前をつけ、法則として複数場面に活用する。これが抽象化による人間の知能のすごさといつてよいでしょう。

具体レベルの個別事象を、一つ一つバラバラに見ていては無限の時間がかかるばかりか、一切の応用が利きません。一般に「法則」とは、多数のものに一律の公式を適用でき、それによって圧倒的に効率的に考えることを可能にするものです。

ここでの「法則」は、「フレミングの法則」や「慣性の法則」のような物理学の法則だけではありません。たとえば身近な「夕焼けが出れば翌日は晴れる」のような「経験則」でも構わないし、さらに卑近な例でいえば、会話の相手が怒っていたり喜んでいたりする状況を相手の表情から読み取れるというのも、暗黙のうちに私たちが相手の顔の動きの「パターン」を読み取って、「こういう場合は怒っている」と判断しているわけです。

「パターン認識」や「法則」によって私たちがどれだけ「賢く」なっているかは計り知れません。その根本にあるのが抽象化なのです。

このような身近な生活の知恵のみならず、アカデミックな知も、抽象化という形で「表面上異なる複数の事象を同じに扱う」ことで発展してきたものです。

「エネルギー」という概念で「熱」や「運動」や「高さ」をすべて「同じもの」ととらえたおかげで、これらを「エネルギー保存の法則」という理論で取り扱い、たとえば発電という形で人類全体の役に立つ応用技術が生み出されてきました。これも、抽象化による知の発展として挙げら

れます。

抽象化なくして科学の発展はなく、抽象化なくして人類の発展もなかったといってよいでしょう。

（『具体と抽象』細谷功^{いとお}（一部改変））

【語注】

- ・事象…できごと。
- ・森羅万象…宇宙に存在する一切の物事。ありとあらゆるこの世のすべて。
- ・表裏一体…二つのものが密接に関わっていること。
- ・グループピング…複数のものを一つのグループにまとめること。
- ・卑近…身近なことがら。
- ・暗黙のうちに…言葉として確認していないが、なんとなくルール化していること。

問1 二つある空らん A に共通してあてはまる語句を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア A I イ 動物 ウ 神 エ 自然

問2 ぼう線部①「抽象化」について、次の文の空らんにあてはまる言葉を本文中から八字で抜き出しなさい。（記号・句読点を一字に数える）

「抽象化」とはリングゴ三個や犬三匹を（ ）と見なすことで「三」と考えることである。

問3

ぼう線部②「それらの同じ性質をまとめて扱うことでコミュニケーションができたり、森羅万象の理解が進んだりします」とあるが、これを説明したものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 個別の鮪に一つ一つ違う名前を付けて区別すること、どの鮪について話しているのかが相手に正確に伝わり、コミュニケーションがとりやすくなるということ。

イ 「魚は健康に良い」という表現のように、言葉をまとめると本来の意味とは違う、あいまいな印象を相手にあたえてしまう危険性があるということ。

ウ 「魚類」の研究を発展させるためには、まず個別の魚の名前をすべて覚えるという大変な作業を乗りこえなければならないということ。

エ 「鮪」や「鮭」などを個別に挙げなくても、「魚」という一つの言葉でまとめ、**「魚を食べよう」**といった考えを簡単に伝え合うことができるということ。

問4

空らん

 ・

 にあてはまる語句を次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア このように イ たとえば ウ また エ したがって オ しかし

問5

【図X】の空らん

 ・

 にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア

 .. 抽象

 .. 具体

イ

 .. 具体

 .. 抽象

ウ

 .. 魚

 .. 鮪

エ

 .. 鮪

 .. 魚

問6 ぼう線部③「具体↕抽象という関係」とはどのような関係か。本文を参考にして七十字以上八十字以内で説明しなさい。なお、次の条件を全て満たすこと。

【条件】

- ・本文で用いられている以外の例を挙げて説明する。
- ・「具体」「抽象」「相対的」の三つの語句をすべて使用する。
- ・「↕関係。」で終わらせる。

問7 ぼう線部④「飼い犬との自動翻訳が可能になったという思考実験をしてみます」とあるが、この会話が成り立ちにくい根本的な理由を説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を本文中から十二字で抜き出しなさい。

犬は（ ）が弱いため、具体的な物で示されないと理解することが難しいから。

問8 空らん D にあてはまる故事成語かことわざを次の中から選び、記号で答えなさい。なお、――の下に書かれているのはそれぞれの故事成語やことわざの意味である。

- ア 温故知新――昔の教えや物事を学び、そこから新しい知識や考え方を見いだすこと。
- イ 大器晩成――真に偉大な人物は、大成するまでに時間がかかるということ。
- ウ 一を聞き十を知る――物事の一部を聞いただけで、そのすべてを察して理解すること。
- エ 百聞は一見に如かず――何度も話を聞くより、一度実際に目で見た方が確かだということ。

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ガラスの壁に面した階段をのぼり、ソファのある明るい窓辺へ。そこに、ねずみ色のツナギを着たおじいさんが、傍らに本を積んで座っていた。その膝には当然のように、分厚い書籍が開かれている。

「岩波さんー」

とワルツさんがおさえた声で呼びかけるので、上緒さんは①少し驚いた。呼ばれた岩波さんの方はひょいっと本から顔をあげて。

「ほうい」

と一声答えてみせた。足早に近づいて、ワルツさんは言う。

「探しました」

「探されました、か」

「はい」

嘘だ、と上緒さんは背後で思う。ワルツさんは、絶対、岩波さんを探してなんていなかった。常連さんだから、どこにいるかわかるのだろうか。どっちにしろ絶対、探してなんかいない、と上緒さんは思うけれど、言わなかった。

「どうしたね」

と岩波さんがワルツさんに尋ねる。ワルツさんは横に一步ずれると、綺麗な手首をひらりと上にして、上緒さんを示しながら岩波さんに言った。

「こちらのお客さまの車が、駐車場で岩波さんの車と接触してしまったそうで」

「ほ」

と岩波さんの口が丸く開いた。上緒さんは慌てて、勢いよく頭を下げる。

「すみません!!」

そのまま頭を上げられないでいると、上緒さんの頭のとっぺんに、岩波さんの声がかかる。

「②怪我は?」

驚いて、上緒さんが顔をあげる。中途半端に腰を折ったまま、ぶんぶんと左右に首を振ると、
「怪我がないならよかった」

と岩波さんは笑った。

情けないことだと思ふけれど。

③ ぶわつと上緒さんの目に涙が浮かんで、しばらく顔が、上げられなかった。

外はもうすでに薄暗くなっていた。冷たさを含み風と、虫の鳴く声が、そこかしこから聞こえてくる。

岩波さんは塗装の傷ついた自分の車を A 見て、「自分でやってみようか」と呟いた。いくら弁償することになるのかと、恐々としていた上緒さんは面喰らう。

「自分で、って」

「明日もいい天気だと言うからなあ」

岩波さんはそんな理由を述べた。そしてワルツさんに向き直る。

「ワルツさん、車の補修の、本はあるかね」

「ありますとも」

自信に満ちた笑顔で、ワルツさんが頷く。

「どの辺りかな」

「一階右の庭側、F 棚の右からこのくらいの、この辺り」

ワルツさんは ④ よどみない口調で、左右に動かしした手を、自分の顎辺りで止めた。

「『自家用車の補修整備』が一番新しい書籍です。戦後発行ですから、わかりやすいかと思いますよ。製本もリングノートの形式で、ふんだんに写真がのった初心者向けです」

よどみないこたえに上緒さんが ⑤ 啞然としてみると、岩波さんは笑って、自分の手を、ワルツさんと同じ高さまで上げて言った。

「この辺り、だな。見てみよう」

「是非」

につこりとワルツさんは笑った。啞然としている上緒さんを、岩波さんが振り返って言う。

「お嬢さん、よかったら、明日朝、また図書館にいらっしゃい」

「えっ」

「あんたの車の傷も、わしが直してみよう」

うまく出来るかはわからんがなあ。呵々^かと笑いながら岩波さんが図書館に^{もと}戻っていく。上緒さんのこたえも聞かずに。確かに、そうしてもらえれば嬉しい^{うれ}い、と上緒さんは思う。車の補修なんて、どこに行けばいいかわからない。DB^{データベース}を調べてやり方がわかったとしても、自分で出来る自信なんてない。だから、渡り^{わた}に船の申し出、ではあるのだけれど。

想定外のことばかりで、上緒さんは^⑥ 呆然^{ぼうぜん}とするしかない。「明日来ていただけるのでしたら」と隣^{とな}でワルツさんが微笑^{ほほえ}みながら言った。「履^はき物も、どうぞそのままお帰り下さい。明日でよろしいですよ」

「あの」

先にお礼を言わなければならなかっただろうに、上緒さんの口について出たのは、不躰^{ふしづ}な問いかけだった。

「本……全部、覚えてるんですか？」

荒唐無稽^{こうとうむけい}なその言葉に、ワルツさんは笑う。

「まさか、全部は覚えていませんよ」

じゃあ、なにを。どこまで……という上緒さんの問いは、ワルツさんの微笑みにかき消された。

「せっかくですから。本、借りていかれたらいかがですか？」

「え、でも」

そんな簡単に借りられるものとは思わなかったし、お金をとられても困るし、そもそも、私、本を。読んだことなんて、という言葉を告げることは出来なかった。だって、ここはどこだ？

図書館の、駐車場じゃないか。

「^⑦……はじめてなんです」

そんな間の抜^ぬけたことを言ったら、ワルツさんは笑った。

「ようこそ。サエズリ図書館へ」

駐車場の外灯に照らされた、どこまでも、どこまでも優しく美しい笑顔だった。

(『サエズリ図書館のワルツさん』紅玉いづき)

【語注】

・書籍…本のこと。

・渡りに船…必要なものなどが良いタイミングで手に入る状況のこと。

・面食らう…びつくりする。

・不躰…失礼。無遠慮。

・荒唐無稽…言動に根拠がなくてとりとめもないこと。でたらめ。

問1 ぼう線部①「少し驚いた」とあるが、上緒さんはなぜ驚いたのか。その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ワルツさんが、事故の相手であるおじいさんのことを名前で呼ぶほど親しいとわかったから。

イ ワルツさんが、今本を読んでいる最中の相手に対し、気を遣わずに声をかけたので失礼だと思ったから。

ウ ワルツさんが、まるで旧知の仲のように、初めて会うはずの相手になれなく話しかけたから。

エ ワルツさんが、年上であるはずのおじいさんに対して、命令するような強い口調で話しかけたから。

問2 ぼう線部②「怪我は？」という岩波さんの最初の言葉は、彼のどのような考えによるものと考えられるか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 車の修理代を請求する前に、相手に怪我がないか確認するのは当然の礼儀だと考えている。

イ もし相手に怪我があれば、修理代だけでなく治療費も請求できると考えている。

ウ 物である車の傷よりも、まず相手の体の無事を心配するのが一番大切だと考えている。

エ 相手が怪我をするほどの状況だったのかを調べ、事故の原因を推理しようと考えている。

問3 ぼう線部③「ぶわっと上緒さんの目に涙が浮かんで」とあるが、この時の上緒さんの気持ちを説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を漢字二字で書きなさい。

しかられるという予想に反して、優しい言葉をかけられた（ ） 感から張りつめていた気持ちがゆるんで、涙が出てしまった。

問4 空らん A にあてはまる言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ぼんやりと イ おそろおそろ ウ ちらりと エ しげしげと

問5 ぼう線部④「よどみない口調」でワルツさんが説明した内容としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 本の置いてある大まかな場所
イ 本の具体的な書名
ウ 本の価格と貸出状況
エ 本の内容と見た目の特徴 とくちよう

問6 ぼう線部⑤「啞然としている」と、ぼう線部⑥「呆然とするしかない」とあるが、なぜ上緒さんは「啞然」、「呆然」としたのか。その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 事故の被害者 ひがいしや である岩波さんから思いがけず優しくされ、さらにワルツさんの人間ばなれした記憶力 きおくりき を目の当たり ま にするなど、予想外の出来事が続いたから。
イ 事故の修理代を請求されない代わりに、何か別の要求をされるのではないかと、二人のあまりに親切な態度をかねてあやしく思い、警戒 けいかい してしまったから。
ウ 岩波さんとワルツさんが実は知り合いだったということに気づき、二人が協力して自分をだまそうとしているのではないかと考え、こわくなったから。
エ 自分の不注意で二人に多大な迷惑 めいわく をかけてしまったことへの罪悪感と、車の修理代を弁償できないかもしれないという不安で、頭が真っ白になってしまったから。

問7 ぼう線部⑦「……はじめてなんです」とあるが、上緒さんがこのように言った理由を説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を本文中から八字で抜き出さない。(記号・句読点を一字に数える)

本を読んだことがない上緒さんは、ワルツさんの提案に戸惑^{とまど}ったが、自分が（ ）にしていることを思い出し、本を借りることにしたから。

問8 この物語の最後の場面におけるワルツさんの笑顔は、上緒さんにとってどのようなものだったと考えられるか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 本を読んだことがないという上緒さんを、心の底で見下していることが感じられる、不気味な笑顔。

イ 車の事故という災難が、思いがけず新しい世界への温かい入り口となったことを感じさせる笑顔。

ウ ようやくやかいた客が帰ってくれるという、安堵^{あんど}の気持ちが表れている、事務的な笑顔。

エ 明日もまた来てくれることへの期待と、車の修理がうまくいくことを願う、親切さを感じる笑顔。

問9 次の会話文は、清林館中学校の生徒であるジョセフとマリーが本文を読み終えたあとに感想を話し合っているものである。空らんにあてはまる言葉を十五字以内で答えなさい。

ジョセフ この文章って、人物の気持ちを表す表現が細かいよね。上緒さんの心情が、行動とか言葉よりも「描写」で伝わってくる感じ。

マリー そうだね。特に、岩波さんに「怪我は？」って言われた後のところ。「涙が浮かぶ」って書いてあるけど、あれは上緒さんが緊張から解放された瞬間を表してるよね。

ジョセフ だね。あと、ワルツさんの最後の台詞。「ようこそ。サエズリ図書館へ」っていう言い方がすごく印象的だった。あれって、言葉自体が丁寧だし、なにより、相手を包みこむような表現になってたよ。

マリー うん。あの場面の描写を読むと、ワルツさんが、上緒さんに対して 様子がそのまま伝わってくるよね。

第3問 次の各問いに答えなさい。

問1 次のぼう線部の漢字の読みがなを書きなさい。

- ① 電力の供給が止まる。 ② 二人の距離が縮まる。

問2 次のぼう線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- ① 豊かなシゲンに恵まれる。 ② 国ををオサめる。

問3 次の文章の空欄①②にあてはまる言葉を、それぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

町内で開かれる科学教室に参加したいと思っていた。(①)、同じ日にサッカーの試合があり、どちらを優先すべきか迷っていた。科学教室では自由研究のヒントが得られるかもしれない。一方で、試合はチーム全員で力を合わせてきた大事なイベントだ。家族にも相談したが、最終的に決めるのは自分だ。私は長く悩んだ末、科学教室に行くことにした。(②)新しいことを学ぶ機会を大切にしたかったからだ。

- ア つまり イ それでも ウ しかし エ なぜなら オ そして

